自分の思いや考えをもち表現することができる児童の育成
～対話的に学ぶことを通して～

研究推進委員会

本校では、児童の学力向上とともに、教師の指導力向上を目指し、授業研究に取り組んでいます。具体的には対話的に学ぶことを通して、自分の思いや考えをもち表現することができる児童の育成に向けて、研究を重ねています。

１月 28 日水曜日、１年生の研究授業がありました。入学してからの出来事を振り返り、自分たちの成長に気が付いたり、新しく入学してくる新１年生を迎える準備をしたりすることを通して、自分の思いや考えを表現する力の育成を目指しました。

第１学年　生活科　「もうすぐ２年生」

墨田区の「幼保小中一貫教育協議会」の取り組みとも連携し、来年度小学校に入学する年長児との交流活動を設定しました。事前に年長児が不安なことや質問したいことを聞き、年長児の不安を取り除くためには、何をしてあげたらいいのかを皆で話し合い、準備をすすめていきました。

学年で１２のグループを作り、グループで年長児に体験してもらう内容を決めました。

「年長さん」という相手を意識して、自分たちが伝えたいことや年長児が知りたいことをどのような方法で教えられるか話し合い、体験してもらう内容を組み立てていきます。





教員から指示するのではなく「どうしたいの？」「どうすればいい？」と児童の「気付き」を促しました。

児童は一生懸命自分たちで考え、話し合い、よりよい小学校体験を目指して工夫していました。



授業後の教員同士の話し合いでは、「児童が相手意識をもって活動していた」「『気付く』という学習をしていた」といった成果や、「対話をするための『スキル』をどう身に付けていったらいいか」といった課題が出ました。講師の先生からも講評をいただき、今後の授業のヒントを得ることができました。

日々、研鑽を続けてまいります。